

はじめに

歯の破折（とくに垂直性歯根破折）は、直接的に歯を失うことにつながる最悪の事態であり、歯科医師であれば最も遭遇したくない臨床的な状況の一つであるといつてよい。歯の破折を予防するために我々ができることとは、どのようなことがあるのだろうか？

対策をとるためには、まず破折の原因を知らなければならない。歯の破折は多因子であるといわれており、歯科医師がコントロールできる要因と、コントロールしづらい要因とがある。それらを洗い出し、コントロールできる要因に関しては、その対応策を可及的に実践していくことが我々歯科医師にできる、数少ない破折を遠ざける道であり、課せられた責任でもある。

コントロールが可能な要因の例としては、①歯冠歯質の削除過多（修復処置）、②ピンによる補強、③根管形成過多、④ポストや破折器具の除去、⑤ポスト設置、⑥不適切な歯冠修復処置などが代表的なものである。

一方、コントロールが困難な要因の例としては、①咀嚼運動、②パラファンクション、③急な咬頭傾斜角、④温度変化などが挙げられる。

本書においては、コントロール可能な要因に対して具体的にどのようなことを注意しながら臨床を進めていけばよいのかに焦点を当てて、科学的な知見、専門家の共通意見、臨床例などをバランスよく構成した。

先生方の一助となれば幸いである。

2018年3月

石井 宏